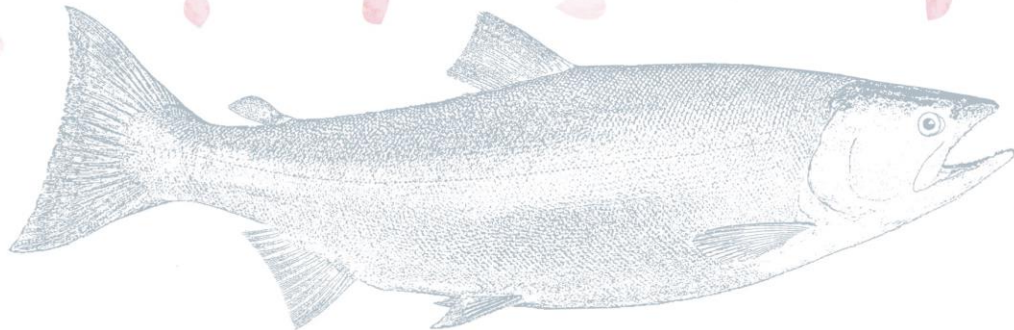


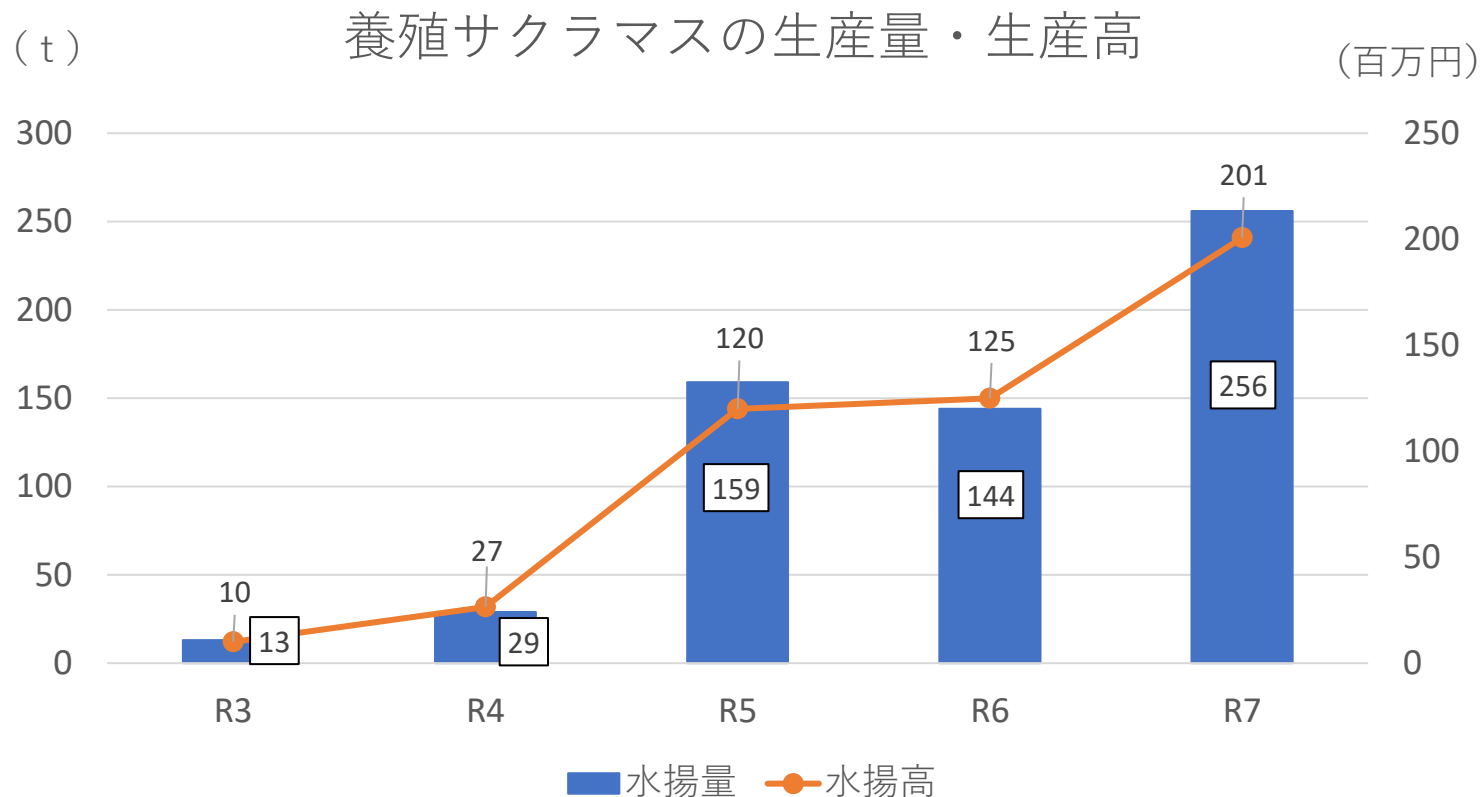
(1) 水産施策等に係る現状報告

ウ 海面養殖サクラマスに関する
取り組み状況について



釜石
はまゆり
サクラマス

(1) 水産施策等に係る現状報告(ウ)



【参考】令和7年度 ※()は対前年同期比較値

●数量:256トン (対前年同期 +112トン)

●金額:201百万円 (対前年同期 +76百万円)

⇒前年度より約5万尾増(171,785尾)の稚魚育成を行い、数量、金額ともに大幅な増加となった。

○補足

・来年度生産予定数量:400トン

(1) 水産施策等に係る現状報告(ウ)

山田・釜石・大槌サーモントレイン開催(6月)

⇒県内の養殖サーモン類の認知度向上及び流通・消費拡大を図るため、県初の取組事例として生産地がある市町が連携したツアーを開催。

⇒県内外から28名が参加



仙台市中央卸売市場での広報イベント(7月)

販路拡大及びPRを目的として、仙台市中央卸売市場において、仲卸業者、バイヤー及び報道各社に対して、PRイベントを実施。

⇒市場関係者からは好評であった。
宮城県内のメディアで報道有。



サクラマスフェア(8月)

市内流通による地域経済の活性化を図り、市内飲食店15店舗を対象にサクラマスを使用したメニューの提供を1か月間開催。

⇒期間内に713食、850,856円の売り上げ。



(1) 水産施策等に係る現状報告(ウ)

○国内最大規模を誇る生産量の当市サクラマスは、大半は市外へ流出している。

市のブランド魚として確立するため、市内需要を増やすための取組が求められる。

○取組の一環として

サクラマスプロモーション会議（10月）

・ 県内大学教授や県沿岸振興局、市内企業等を交え、今後のPRの取組方針について協議する、サクラマスプロモーションコンソーシアム会議を開催。

サクラマス協議会（3月開催予定）

・ サクラマスの流通に関わる実働者を参集し、市内流通制度について協議を行う、「サクラマス協議会」を開催予定。

○プロモーションにおける今後の方向性・課題

1 継続的な認知度向上に係る取組

⇒地域商品のファン、地域のファン、地域内のファンの獲得を目的とする。

2 新規経営体の創出

⇒市内水産業者への聞き取りを実施。

3 地域事業者の活用意欲の喚起

⇒事業者の意見を伺い、積極的な参加を促す環境を作る。